



右隻



左隻

5 源氏物語図屏風 狩野探幽

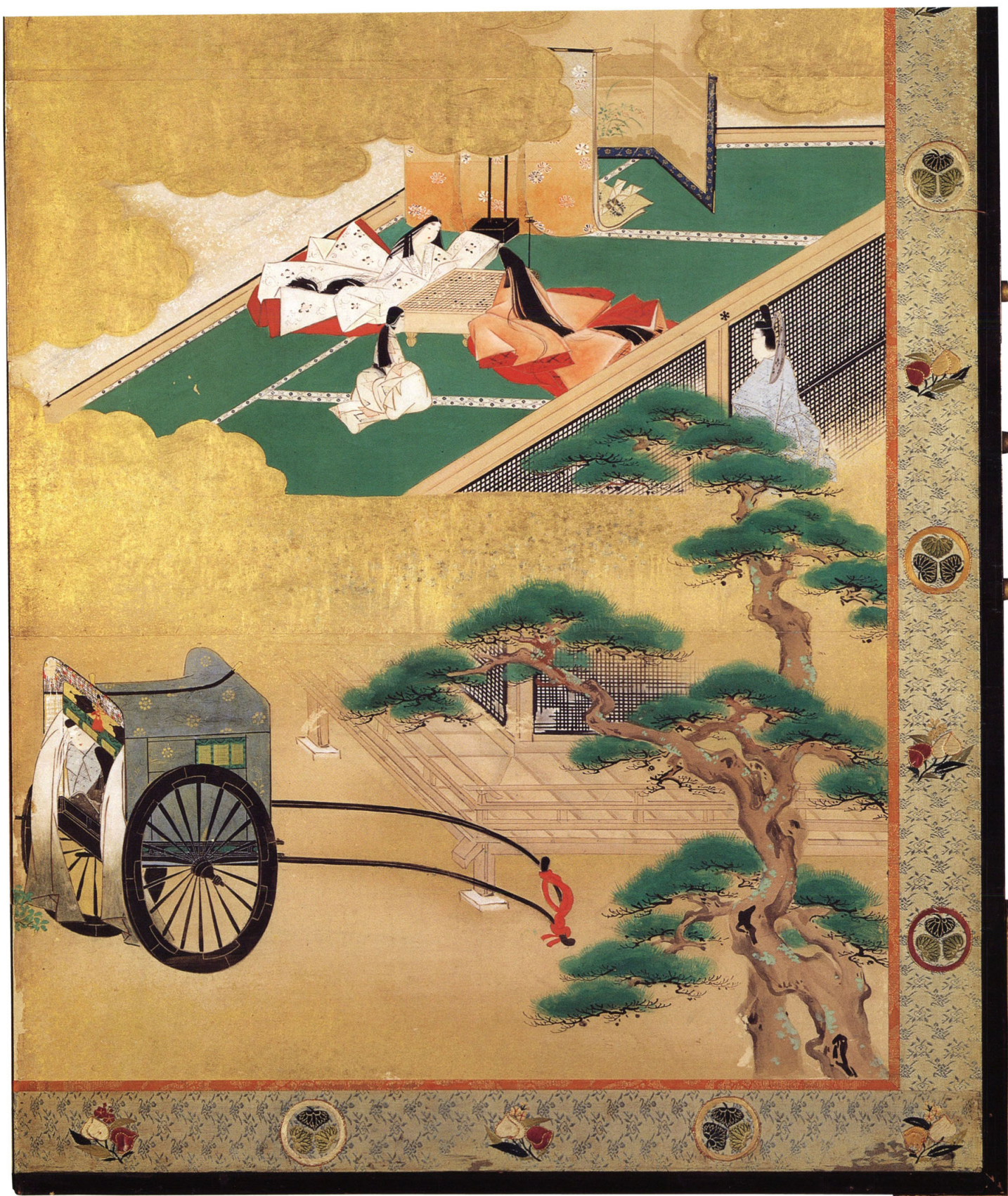
六曲一双

紙本着色 寛永十九年(一六四二)
各本紙一六五・五×三六・四

本屏風は、寛永十九年、八条宮第二代智忠親王(一六一九〜一六二二)に嫁いだ富姫の婚礼調度の一品である。富姫は加賀前田利常の女で、徳川将軍の養女となって宮家に嫁いだ。また伯母にあたる後水尾院妃・東福門院の尽力も大きかったと伝えられる。そのため、本屏風を制作したのは、将軍家御用画師であった狩野探幽(一六〇二〜一七四四)であり、その縁には葵文と桃枝文の縫取、飾り金具は葵文を表した七宝金具をあしらひ、美しく装飾されている。

屏風には、物語五十四帖の総てが、金の霞と雲によって区切られた小画面にまとめられている。全体に明るい色調で、細線を軽快に用いている本作は、探幽が、もともと漢画を旨としてきた狩野派の在り方とは異なる、探幽としての新しいやまと絵を創り上げていった作品でもある。土佐派のお家共であった源氏絵とは異なる狩野派の源氏絵を、探幽は見事に展開している。「蓬生」のように、平安時代の絵巻「源氏物語絵巻」(国宝、徳川美術館ほか蔵)に見られる伝統的な図様がある一方、探幽の創意によるものかと考えられる図様もあり、それらの大画面への取り合わせの見事さ、そして穏やかな趣に仕上げたやまと絵の手法は、探幽四十〜四十一歳頃の、卓抜した才能を発揮した優品である。

この屏風の各場面の図様は、以後、狩野派の画師たちの手本ともなり、多くの「源氏物語」を題材とした作品を生み出している。



「空蟬」「夕顔」(右隻第1扇部分)



「蓬生」(右隻第4扇)



「絵合」(右隻第5扇)



「竹河」(左隻第4扇)

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

江戸の美意識 — 絵画意匠の伝統と展開

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 28

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十四年三月二十六日発行

©2002. Museum of the Imperial Collections